

平成28年度第2回東北森林管理局林野公共事業事業評価技術検討会審議概要

1 開催日時 平成29年2月27日 14時00分～15時40分

2 開催場所 東北森林管理局2階大会議室

3 出席者

(1) 技術検討会

会 長 井良沢 道也

委 員 佐々木 貴信

委 員 駒木 貴彰

(2) 当局出席者（検討委員会委員）

森林整備部長

計画保全部長

企画調整課長

計画課長

治山課長

森林整備課長

資源活用課長

企画調整課監査官（事務局）

4 議事概要

1. 森林計画の概要

2. 事前評価

・ 森林環境保全整備事業：津軽森林計画区（津軽森林管理署）

〃 （津軽森林管理署金木支署）

久慈・閉伊川森林計画区（三陸北部森林管理署）

〃 （三陸北部森林管理署久慈支署）

【総括的質疑】

委 員：津軽森林計画区においてヒバ林復元の推進とあったが、スギと比べて手間ひまのかかり方の違いを教えてください。

当 局：ヒバ林復元については、区域としては下北半島、津軽半島のほぼ全域の国有林を対象としているが、この中で具体的に実施できるところは限られていると考えている。尾根の部分、中腹部については比較的ヒバの天然林が広がっており、その周辺にはスギの人工林があるわけだが、そのスギ林分の中に一部ヒバが数mもしくは数十cmの高さで存在しているところがある。今回

のヒバ林の復元については、主にそうした残っているヒバを活用していくことを中心としつつ、開けた部分は植栽していく方法をとっていく考えである。そういったことから、植栽そのもの手間というのは少ないが、成林するまで相当な時間を要するし、また、この取組は初めての試みなので、手間ひまはかかってくると考えられる。

委
当

員：スギとヒバの材価の違いを教えてください。

局：スギについては、一般的な並材であれば1万円前後になる。ヒバについては、大径材と間伐の細い材で差はあるが、良材であれば5万円程度となっている状況である。ヒバの植栽についてもこれまで実行しているが、人工林については漏脂病等様々な課題があるので、民有林にそこまで普及していない状況であり、今後の課題かと思われる。

委
当

員：台風10号により、久慈・閉伊川で山地災害が発生したと思うが、被害はどのような状況だったのか教えてください。計画作成段階で、被害への対応を盛り込んでいるか。

局：本計画作成の最終段階に入ってから発生した災害であったことから、本計画、特に主伐の計画については、台風10号による影響を反映させたものとはなっていない。今後明らかになる被害状況により、林道開設を予定していたものが改良工事に変更になるなど出てくるかと思われる。

また、今回の台風10号は、山が崩れるといった災害ではなく、林道が壊れるといった災害が多く発生している。今後計画した箇所を伐採していくに当たって、災害により使えない林道等も出てくる可能性もあるので、実行段階で計画通りいかないところが出てくると思われる。災害の場合には計画に載せなくても治山も林道も臨機応変に災害に対応出来るようになっている。

委
当

員：ヒバ人工林の小径木はどのくらいの年数が経ったものなのか。また、収穫までにどのくらい年数を要するのか。

局：参考資料にある伏条更新の写真でもおそらく20年程度経っているかと思われる。また、実生更新の写真については、一番小さいのだと2、3年程度のものもあると思う。膝の高さ位になると芽が上に向かって伸び始めるが、上がうっ閉しているとその時点で20～30年はかかっていると思われる。最終的に伐採できる森林になるには100～150年、スギの約3倍程度はかかるだろうと考えられる。

委
当

員：台風の影響で、もし林道が崩れたりしていたら改良工事に対応との話だったが、例えば、既に作られているインフラ、トンネルや橋等の長寿命化みたいなものは、この改良工事に対応することにはなり得ないのか。

局：改良工事については、今回の事業評価では見ていない。林道に

については開設のみを見ており、あくまで伐採計画等に基づいた開設で、それが長期にわたってどれくらい便益が出るのかを見ている。

委員：先ほど説明していただいたチェックリストに既設の林道等も活用しつつ森林整備と連携した計画となっているとのことだが、改良工事とは関係ないものかもしれないが、構造物等の維持管理について、どのような事業があるのか教えていただきたい。

当局：インフラの長寿命化は政府で長寿命化計画を策定することになっている。林道であれ治山施設であれ、その長寿命化計画を策定するために調査をかけており、森林計画とは別に立てている最中である。橋とか構造物等について、一つ一つ長寿命化計画という計画書を立てることになっており、現在調査中で、平成30年度までに計画を策定することとなっている。

委員：地域管理経営計画書（案）（以下「計画書（案）」という。）の予定数量で、先ほど計画課長から主な事業量の保育の取組実績には間伐も含むとの説明があったが、計画書（案）の保育総量には間伐の数量が書いてなくて、事前評価個表（案）（以下「個表（案）」という。）の保育の数値と大分離れているようだが、いわゆる計画書（案）で記載されている保育総量というものと、個表（案）に出てくる保育面積というものは構成要素が違うということか。

また、更新面積についても計画書（案）が2,306haとしているが、個表（案）の津軽森林管理署と金木支署の更新面積を足しても1,518haにしかならないが、この2つの数値の関係はどうなっているのか。

当局：計画書（案）の構造上、間伐は伐採量の方で記載することになっている。以前はボリュームだけを載せていたが、最近では、間伐については面積も表示するようになっている。それとは別に保育量というのが別立てであるため、間伐は保育の一環ではあるが、伐採に間伐の数量が計上され、保育量の方には間伐以外の保育が記載されている。一方、個表（案）に記載されている保育面積というのは、間伐を含めた数量となっている。間伐は他の保育に比べ数量が大きいことから、計画書（案）の数値とは一見違う数値に見えてしまっている。事前評価と計画策定は2つの別々の取組ではあるが、今後は、なるべく分かりやすいように、作成に気をつけなければいけないと思っている。

更新面積については、ご指摘のとおり計画書（案）は2,306haであるが、事業評価における更新面積は、天然下種Ⅱ類とぼう芽においては事業費が発生しないということから今回の評価の更新面積からは除いているため、計画書（案）と個表（案）の数値に違いが見られる。

- 委員：優先配慮事項の評価項目にある山村の活性化について、今回の評価では全てBとなっているが、評価がAになる条件とは何か。
- 当局：評価Aを付ける条件は、具体例を示すしかないと思われる。例えば、事業の結果によって集落の生活環境が向上するといった具体例を示すことが出来ればAになるかと思うが、現状なかなか難しいと思われる。
- 委員：林道の事業費について、地形が急峻であれば、切土盛土が増えて事業費が増えるといった、地形的な面、地質的な面がかなり影響すると思うが、事業費を出す際はどのように算出しているのか教えていただきたい。
- 当局：作成時には、基本図に挿入して作成しており、実際には作成通りとはなかなかならないと思うが、伐採区域に路網を記入しながら算出している。図面上で勾配等も考慮しながら作成はしているが、変わりうることもあると思われる。

【津軽森林計画区：津軽森林管理署及び金木支署】

- 委員：津軽森林計画区について、人工林の齢級構成が10齢級ということで、木材需要が供給源になると思われるが、具体的にその需要先とどのくらい出されるのかを教えていただきたい。
- 当局：青森県のスギの利用といった観点からみると、これまでなかなか県内に加工場が無かったという状況であり、これまでスギの資材を県外に出す動きがあったが、2年前に六戸町にLVL工場ができて、年間12万m³の木材が扱われている。現段階では秋田県の合板工場に相当数流通されているという状況だが、LVL工場ができたことにより相当変わり、また、県の施策にもなっていることから、国有林もシステム販売によりLVL工場等県内の需要に対応するといった考え方で進めていく。
- 委員：津軽森林計画区に関しては地域復興とするよりも地域振興とした方がいいのではないかと思われるがどうか。
- 当局：津軽森林計画区は震災被害がなかったため、修正する。

【久慈・閉伊川森林計画区：三陸北部森林管理署及び久慈支署】

- 委員：久慈・閉伊川森林計画区について、アカマツが主体ということだが、アカマツとスギでは、アカマツの方が材価が高いのか。
- 当局：残念ながら、アカマツは有効利用という面からいくとそこまでいっていないのが現状である。地域の製材所でアカマツをどう利用するか、いろいろ工夫はしているが、天然アカマツと人工林とは違うという評価であり、そんなに利用とはなっていない。

また、この計画区内に2つの署があるが、マツ枯れの状況からいくと、三陸北部署管内では被害が大きい、久慈支署では被害は少ないので、今後はその対応も重要な課題になるかと思われる。

委員：久慈にはよく行くが、旧山形村の方は、地形が割となだらかだが、林道開設コストも若干安めといった考え方でよろしいか。

当局：林道開設コストは、地形、傾斜にもよるが、基本的に地質に影響があると考えている。表土を剥いで岩質を見て、どのくらい手間がかかるか、また、切土盛土で路体が安定するかどうかもあるので、一概に傾斜だけでは開設コストに関しては語れないが、傾斜が緩い方がコストは安くなる傾向にはあると思う。

委員：個表（案）で、アカマツ・カラマツを中心とした木材の安定供給を行うと書いてあるので、アカマツは最近使われているのかなと思ったが、やはりなかなか使われていないのが現状であるとのことで、以前、大槌町の釜石森林組合を訪ねた際、町有林でもたくさんアカマツ林があると聞いたが、例えばチップとかにもこれから使われるような、新しい使い方をご存知なら教えていただきたい。

当局：チップには現在でも使われており、そういう施業としてはアカマツも利用されている。ただ、一般材としての利用がまだまだ少ないのが現状である。

委員：現在、アカマツのCLTを岩手県林業技術センターが開発中である。また、大径木になると、一般材の用途と異なる、いわゆる内装材向けや神社仏閣等の補修等に向けられるといったことから、アカマツの用途もこれから見直されてくるかもしれない。

当局：岩手県の森林組合連合会から、畜産の宿舎を鉄骨で建てたが、糞尿で腐るのでアカマツ材で建て替えたいという意見が多いらしいが、あまりいい材がなくて困っていると聞いている。おそらくアカマツ材は糞尿に強いのではないかと森林組合連合会では話していた。

委員：カラマツは内装材等によく利用されていると思うがどうか。

当局：カラマツは内装材等にも使われているが、合板にも集成材にも全て引き合いが強く、値段も高留まりしている。北海道と岩手県のカラマツでは値段に相当差はあるが、引き合いからいくと強いということを知っている、今後まだまだ続くかと思われる。

【評価】

会長：津軽森林管理署については、人工林の齢級構成が10齢級をピークとした一山型であり、10齢級以上が約6割と主伐期に達している林分が増加しており、森林整備を行うことで、公益的

機能の発揮と木材生産等を通じた地域振興への寄与が発揮されることから、事業の必要性が認められる。

各 委 員：了解。

各 会 長：津軽森林管理署金木支署については、人工林の齢級構成が10齢級をピークとした一山型であり、10齢級以上が約6割と主伐期に達している林分が増加しており、森林整備を行うことで、公益的機能の発揮と木材生産等を通じた地域振興への寄与が発揮されることから、事業の必要性が認められる。

各 委 員：了解。

各 会 長：三陸北部森林管理署については、人工林の齢級構成が10齢級をピークとした一山型であり、10齢級以上が約5割と主伐期に達している林分が増加しており、森林整備を行うことで、公益的機能の発揮と木材生産等を通じた地域復興への寄与が発揮されることから、事業の必要性が認められる。

各 委 員：了解。

各 会 長：三陸北部森林管理署久慈支署については、人工林の齢級構成が10齢級をピークとした一山型であり、10齢級以上が約5割と主伐期に達している林分が増加しており、森林整備を行うことで、公益的機能の発揮と木材生産等を通じた地域復興への寄与が発揮されることから、事業の必要性が認められる。

各 委 員：了解。